

資料 4

福祉環境委員会
(健康局)

令和5年2月14日

済生会兵庫県病院と三田市民病院の再編統合事業に関する質問受付

10月30日と11月3日の2回に渡り、北神区文化センターにおいて済生会兵庫県病院とともに、病院統合に向けた取り組みに関する説明会を実施しました。さらに、本市として、できる限り質問にお答えするために、12月19日から1月18日にかけてメールや手紙などで質問を受け付け、個別に回答を行いました。

(1) 実施概要及び結果

① 実施期間

令和4年12月19日(月)～令和5年1月18日(水)

② 質問の提出方法

手紙・メール

③ 質問の提出人数及び件数

・質問の提出人数

7人(神戸市民…4人、神戸市民以外(西宮市民)…3人)

・意見の件数

24件(神戸市民…18件、神戸市民以外(西宮市民)…6件)

(2) 主な質問と回答

No.	質問	回答
1	(済生会兵庫県病院の岡場での存続に関する質問5件) 済生会兵庫県病院を存続させることはできないのか。	済生会兵庫県病院、三田市民病院ともに「医師の確保」、「施設等の老朽化」及び「厳しい財政状況等」についての共通課題があるとし、その課題を解決するための連携方策について検討を行ってきました。その中で特に医師確保については、新専門医制度、医師の働き方改革等の外部環境の変化により、豊富な症例数を経験できる、若手の医師にとって魅力ある拠点病院を作らなければ、地域医療を支える医師を集めることが難しくなっていることに加えて、医師を派遣する神戸大学としても、今後それぞれの病院に専門性を持った医師を、全領域に派遣するのは困難な状況でありました。 そのような中、令和2年12月の第4回連携会議(北神・三田急性期医療連携会議)において、済生会兵庫県病院より、「単独では将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難。」との報告がありました。 その報告を受けて、済生会兵庫県病院と神戸市、三田市の三者による協議の結果、令和3年6月に北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会を設置し、北神・三田地域の将来的な医療需要及び医療提供体制や、現状の課題等を踏まえ、済生会兵庫県病院と三田市民病院との再編統合も視野に入れ、当該地域の急性期医療を将来にわ

		<p>たって維持・充実させるための方策を検討することとしました。</p> <p>令和4年3月には、本検討委員会における5回の検討の結果、北神・三田地域において、必要な急性期医療を将来にわたって提供していくためには、「三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合が最も望ましい。」「その際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、両病院の中間地点が望ましい。」との報告があり、その報告を踏まえて、三田市・神戸市・済生会兵庫県病院の三者で協議を行った結果、三田市民病院と済生会兵庫県病院が再編統合して神戸市域の中間地点付近である長尾町宅原に新病院を整備することにより、三田・北神地域の急性期医療の充実を目指すこととしました。</p>
2	<p>(再編統合の経緯に関する質問4件)</p> <p>なぜ、三田市所有の病院を神戸市北区に作るのか。</p>	<p>三田市民病院は、市民病院の継続的な経営に関する審議会(平成31年2月)から、一般会計繰入金水準が、同様の医療機能の病院に比して著しく高い経営状況から早期に脱却するために収益性の向上が必要となり、それらを実現するため経営形態の再検討が必要であるとし「地方独立行政法人(非公務員型)、または指定管理者制度のいずれかの経営形態が望ましい」の答申がありました。</p> <p>また、令和元年11月に三田市民病院と済生会兵庫県病院が、北神地域及び三田地域の急性期医療の連携のあり方を検討し、持続可能な急性期医療の堅持・充実を図ることを目的に「北神・三田急性期医療連携会議」を設置することとしました。神戸市は、北神地域の急性期医療・救急医療を確保する観点から、済生会兵庫県病院の要請に基づき、参画しました。同会議において、両病院には「医師の確保」、「施設等の老朽化」及び「厳しい財政状況等」についての共通課題があるとし、その課題を解決するための連携方策について検討を行ってきました。</p> <p>その中で特に医師確保については、新専門医制度、医師の働き方改革等の外部環境の変化により、豊富な症例数を経験できる、若手の医師にとって魅力ある拠点病院を作らなければ、地域医療を支える医師を集めることが難しくなっていることに加えて、医師を派遣する神戸大学としても、今後それぞれの病院に専門性を持った医師を、全領域に派遣するのは困難な状況でありました。</p> <p>そのような中、令和2年12月の第4回連携会議において、済生会兵庫県病院より、「単独では将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難。」との報告がありました。</p> <p>その報告を受けて、済生会兵庫県病院と神戸市、三田市の三者による協議の結果、令和3年6月に北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会を設置し、北神・三田地域の将来的な医療需要及び医療提供体制や、現状の課題等を踏まえ、済生会兵庫県病院と三田市民病院との再編統合も視野に入れ、当該地域の急性期医療を将来にわたって維持・充実させるための方策を検討することとしました。</p> <p>令和4年3月には、本検討委員会における5回の検討の結果、北神・</p>

		<p>三田地域において、必要な急性期医療を将来にわたって提供していくためには、「三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合が最も望ましい。」「その際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、両病院の中間地点が望ましい。」との報告があり、その報告を踏まえて、三田市・神戸市・済生会兵庫県病院の三者で協議を行った結果、三田市民病院と済生会兵庫県病院が再編統合して神戸市域の中間地点付近である長尾町宅原に新病院を整備することにより、三田・北神地域の急性期医療の充実を目指すこととしました。</p>
3	<p>(神戸市が行う財政支援に関する質問3件) なぜ、神戸市が財政支援を行うのか。</p>	<p>現在も済生会兵庫県病院に対しては、救急医療、地域周産期母子医療センターに係る経費の一部について財政支援を行っています。</p> <p>地域周産期母子医療センターは、ハイリスク妊婦やハイリスク新生児に対応し、救急患者を24時間体制で受け入れる機能ですが、周産期医療部門については、少子化による患者数が減少傾向にある中で医師の体制は一定数確保する必要があることから、済生会兵庫県病院の持つ地域周産期母子医療センターは、平成28年度以降、毎年度約2億円の赤字となり、収益悪化が続き、地域周産期母子医療センターの存続が危ぶまれる状況でありました。そのため、地域周産期母子医療センターの機能を将来的に維持・継続するために令和3年度から地域周産期母子医療センターに対する支援制度を創設したところであります。</p> <p>しかしながら、この度の再編統合の要因となっている済生会兵庫県病院の状況は、「医師不足、施設の老朽化、経営収支の悪化」により済生会兵庫県病院単独で、将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難な状況となっており、三田市民病院においても同様に単独では、救急医療をはじめとする急性期医療を維持し続けることは困難状況となっています。</p> <p>医師不足や施設の老朽化などについては、病院自体の構造的な課題によるものであるため、本市と三田市が共同で「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」を設置し、議論を行った結果、「再編統合が最も望ましい」との報告がなされました。</p> <p>本報告書を踏まえ、神戸市、三田市、済生会兵庫県病院の三者で協議をした結果、両病院が再編統合して新病院を整備することにより、北神・三田地域の急性期医療の充実を目指すこととなったものであります。</p> <p>北神地域の急性期医療を将来にわたって確保するために、救急医療、周産期医療については神戸市としても引き続き財政支援を行うべきと判断しました。</p>
4	<p>新病院はなんという名称になるのか。(新病院に関する質問3件)</p>	<p>名称についてはまだ決まっておりません。決定しましたら、ホームページ等で案内させていただきます。</p>
5	<p>(交通対策に関する質問2件) 新病院へのアクセスについて</p>	<p>病院利用者や整備候補地の周辺住民にとって望ましい対応をしていきたいと考えておりますが、現段階では、詳細が決まっていな</p>

		<p>めお示しできない状況です。</p> <p>新統合病院までのバスなどの交通アクセスについては、令和6年度に三田市が策定予定の、統合病院の基本計画において、整備場所の具体的な範囲が決まった段階で、交通事業者と調整の上で基本的な計画が決まるため、令和6年度の基本計画策定後、基本的な計画が決まった段階で、住民説明会などで住民の皆様にご説明してまいります。</p> <p>新統合病院への車でのアクセスに関する交通対策、生活環境への影響などについては、病院にかかる基本設計を令和7年度から8年度に作成することとしており、新統合病院の配置やデザインが決まった段階での調整となるため、令和8年度の基本設計作成後、住民説明会などで住民の皆様にご説明してまいります。</p>
6	<p>(西宮での説明会開催に関する質問2件)</p> <p>神戸市北区や三田の市民には説明会が開催されたが、西宮北部の利用者にはなぜ説明会が開催されないのか。</p>	<p>北神地域全体の住民説明会としてはありますが西宮市民も参加できる病院統合に向けた取り組みに関する説明会を、10月30日と11月3日の2回に渡り、北神区文化センターにおいて済生会兵庫県病院とともに、実施しました。2回の説明会の内容はホームページに掲載しております。さらに、本市として、できる限り質問にお答えするために、12月中旬から1月中旬にメールや手紙などで質問を受け付け、可能な限り速やかに個別に回答をさせていただいており、質問内容に関しては整理し、後日ホームページに掲載する予定です。</p>
7	<p>(医師確保に関する質問1件)</p> <p>医師確保ができるという具体的根拠について教えてほしい。</p>	<p>医師確保については、新専門医制度、医師の働き方改革等の外部環境の変化により、豊富な症例数を経験できる、若手の医師にとって魅力ある拠点病院を作らなければ、地域医療を支える医師を集めることが難しくなっていることに加えて、医師を派遣する神戸大学としても、今後それぞれの病院に専門性を持った医師を、全領域に派遣するのは困難な状況であるとの報告を受けております。</p> <p>また、令和元年11月に三田市民病院と済生会兵庫県病院が、北神地域及び三田地域の急性期医療の連携のあり方を検討し、持続可能な急性期医療の堅持・充実を図ることを目的に設置した「北神・三田急性期医療連携会議」の第4回連携会議において、済生会兵庫県病院より、「単独では将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難。」との報告がありました。</p> <p>その報告を受けて、済生会兵庫県病院と神戸市、三田市の三者による協議の結果、令和3年6月に北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会を設置し、北神・三田地域の将来的な医療需要及び医療提供体制や、現状の課題等を踏まえ、済生会兵庫県病院と三田市民病院との再編統合も視野に入れ、当該地域の急性期医療を将来にわたって維持・充実させるための方策を検討することとしました。</p> <p>令和4年3月には、本検討委員会における5回の検討の結果、北神・三田地域において、必要な急性期医療を将来にわたって提供していくためには、「三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合が最も望ましい。」、「その際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、両病院の中間地点が望ましい。」との報告があ</p>

		り、その報告を踏まえて、三田市・神戸市・済生会兵庫県病院の三者で協議を行った結果、三田市民病院と済生会兵庫県病院が再編統合して神戸市域の中間地点付近である長尾町宅原に新病院を整備することにより、三田・北神地域の急性期医療の充実を目指すこととしました。
8	(跡地に関する質問1件) 病院の跡地はどうなるのか。	<p>済生会兵庫県病院については、北神住民説明会において「跡地には何らかの医療機能を残したいと考えていますが、現段階では決まっていません。課題を整理しながら決めていきたいと考えます。」との説明がありました。</p> <p>また、三田市民病院については「三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想」の中に、「跡地に回復期機能を有した民間医療機関等を誘致し、市内の回復期機能を充実させることによって、市民が安心して医療を受けることができるような体制を構築する。」と記載されています。</p>
9	(病院の病床数に関する質問1件) コロナ禍になって3年がたち、また、今年はインフルエンザとの同時流行が懸念されているが、そのような中、ベッド数を減らすのはどうなのか。	<p>新統合病院の病床数は、「現病院における病床稼働の状況」、「高齢化に伴う急性期の医療需要の増加」、「医療技術の進歩に伴う入院日数の短期化の影響」や「新統合病院における医療機能の充実の程度」など、様々な要素を踏まえて総合的に検討する必要があります。</p> <p>北神・三田地域における急性期医療の確保に関する検討委員会の報告書では、三田市民病院と済生会兵庫県病院の推計1日平均入院患者数のうち急性期入院患者数について、ピークとなる2035年には三田市民病院(300床(全て急性期))が260人/日、済生会兵庫県病院(268床(うち回復期46床))が146人/日になると推計され、2病院合わせた1日平均の急性期入院患者数は406人/日となり、少なくともこれに対応出来る病床規模が必要になることから、新統合病院で必要とされる病床数は、400床～450床とされています。</p> <p>新統合病院の病床数を400床～450床とする三田市の基本構想は、本報告書に沿うものとなっており問題ないものと考えております。</p> <p>また、新統合病院は、感染患者と一般患者のゾーニングを適切に行うことができる施設整備を行うとともに、ICU等の施設整備を行い、重症化した患者にも対応できるように体制を整える予定であり、現状の両病院より新興感染症に強い病院となります。</p>
10	(説明会に関する質問1件) 今後も説明会を開催してほしい。	北神地域住民説明会を2回開催しましたが、今後もホームページや広報紙KOB E等で情報提供をさせていただきます。
11	(医療需要に関する質問1件) 北神、神戸市北区、神戸市で医療の需要と供給の現状と、課題解決策の全体がわかるものを示してほしい。	<p>北神地域に関しましては神戸市ホームページ内の「地域医療の確保」のページ、「北神地域の医療提供体制について」の項目に記載しております。また、神戸市全体については同じく「地域医療構想」の項目において記載しておりますので、ご覧ください。</p> <p>〈参考〉 「地域医療の確保」 URL: https://www.city.kobe.lg.jp/a65055/20211029060301.html</p>